

川崎

すてきな贈り物 大切に使います

川崎岩手ライオンズクラブ(米倉義明会長・会員20人)が2月15日、創立30周年を記念し、川崎中学校(皆川修校長・生徒114人)にサクソなど楽器三点を寄贈しました。

贈られた楽器はバリトンサクソ、フレンチホルン、ピッコロの三点。同校を訪れた米倉会長から吹奏楽部の小野寺くるみ部長に手渡されました。

米倉会長が「新しい楽器で頑張ってください」とあいさつすると、皆川校長は「高価な楽器を頂き感謝します。大切に使います」と感謝の気持ちを伝えました。



寄贈された楽器を手にする生徒たち

学習の成果を生かします

川崎町社会教育学級講座生大会と社会教育学級講座合同閉講式が2月26日、川崎公民館で開催されました。

この大会は学習活動への参加促進と各種社会教育学級講座生の1年間の集約・反省の場として開催されたもので、約120人の受講生などが参加しました。

大会では、川の大楽校講座の小野寺トク子さんなど3人が1年間の取り組みや学習の成果をスライドなどを使い発表。1年間の活動を締めくくるとともに、引き続き学習に励むことを誓い合いました。

記念講演では、童話作家の茂市久美子さんが「本が育てる子どもの心」と題して作品の取材秘話や童話作家への道を話しました。



受講生の代表が一年間の成果を発表

環境保全の活動を 進めます

川崎町女性大会が2月19日、川崎公民館で開催され、研究協議で赤柴自治会婦人部の菊地吉子部長が「エコ活動と世代間交流」、川崎村商工会女性部の千葉智野子副部長が「環境対策とエコ活動」、J Aいわい東たすけあいハートの会川崎支部の菅原君代さんが「ボランティア活動」について、それぞれ日ごろの活動を紹介しました。

講演では、磐井病院の佐藤智緩和医療科長が「いのち私らしく」と題して緩和治療の現実や考え方を話しました。

最後に「きれいな環境を残す活動を広げたい」とする大会決議を採択し、エコ活動の推進を誓い合いました。



多くの参加者の前で活動を報告

先輩の情熱！引き継ぎます

川崎スポーツ少年団本部(佐藤勇三本部長)主催の団旗引継式と活動報告会が3月4日、川崎公民館で行われました。

引継式では、野球やソフトボール、サッカーなど10団体、約200人の団員と指導者らが参加。壇上で先輩団員が「県大会出場を目指してがんばってください」「集中して練習を続けてください」と励まし、熱い思いと一緒に後輩団員へ団旗を手渡しました。

引き続き行われた活動報告会では、各団の代表者が17年度の成果と反省、来年度への目標を発表し、18年度の活躍を誓いました。



熱い思いを込めて引き継がれた団旗

家族の愛情に包まれて 満100歳 佐藤みねさん

巖美町の佐藤みねさんが3月10日、満100歳の誕生日を迎えました。明治39年、巖美村(現一関市)で生まれたみねさんは、大正13年に故仁吉さんと結婚。子ども8人、孫21人、ひ孫26人、やしゃご1人に恵まれました。現在は、二男夫婦、孫の妻、ひ孫夫婦、やしゃご(生後9カ月)の7人で仲良く暮らしています。

この日、みねさんは自宅で佐藤収入役からお祝い状と記念品、花束を贈られると、「ありがとうございます」とお礼を述べ、温かい家族からの祝福に幸せな表情を浮かべていました。



家族に祝福される、みねさん(前列右)

伝統の神楽、獅子舞など 10団体が出演

市民俗芸能祭が3月12日、文化センターで行われました。

21回目を迎えたこの芸能祭には市内の保存会など10団体が参加しました。牧澤神楽の「岩戸開き」、達古袋神楽の「鶏舞」や「弁慶安宅の関」など、バラエティーに富んだ熱演が披露され、会場を埋めた700人の神楽愛好家は、地域に古くから伝わる神楽を楽しみました。(今回出演した牧澤神楽保存会と達古袋神楽保存会は、宝くじの普及広報を目的とする財団法人自治総合センターの「コミュニティ助成事業」の補助を受けて神楽装束などを整備しました。)



「岩戸開き」を披露した牧澤神楽

これから元気に歩いてね

3月4日、巖美町の道の駅・巖美溪「ふれあい館」で第5回一歳児の歩き初め会が行われました。

1歳前後の子どもたちが、風呂敷に包んだ1升もちを背負って往復約10メートルを歩くこの会に、今年は市内のほか奥州市や仙台市などから予定をはるかに上回る75人の子どもたちが参加。太鼓の音を合図に5人ずつでスタートすると、家族に支えられながら慎重に歩き出す子や観客に愛嬌を振りまきながら歩く子、もちの重さに驚き泣き出す子などさまざまな表情が見られました。

山目から参加した千葉萌花ちゃん(9カ月)の父悟志さん・母祐子さんは「元気に伸び伸びと育ててくれればいいですね」と娘の健やかな成長を願っていました。



おもちを背負ってヨチヨチ歩き

「和算に挑戦」受賞者表彰式

「和算に挑戦」表彰式が3月11日、博物館で開催され、受賞者19人が出席しました。

今年で4回目になる「和算に挑戦」は広報や市ホームページ、新聞各紙などに問題を掲載。岩手・宮城両県を中心に、北は北海道から南は福岡まで、全国から366通の回答が寄せられました。最も優秀な正解を導いた人に授与される館長賞には、東京都千代田区立神田一橋中3年の永井信弘君(15)が選ばれました。同日は母親の直子さんが出席し「高校受験をしながら和算に取り組みました。いろいろな式を作り答えを導き出したときは喜びでいっぱいになりました。将来は大学に進学し、数学の教師になりたいです」と本人のあいさつを代読しました。



表彰された皆さん